



平成26年5月19日

卓話 『ケニア井戸掘り支援プロジェクトについて!』

株式会社 IWS International (国際物流会社) 代表取締役
東京広尾ロータリークラブ 2014-15年度幹事

高根 博信 様



本日は私どもが2008年から行っているケニア井戸掘り支援プロジェクトについてお話しします。

ケニアでは4人に1人の子どもが5歳の誕生日を迎えずに天国に行ってしまう。原因は

水がからんでいることが多く、コレラや腸チフスなどで亡くなってしまいます。ケニアでは80%の地域でインフラが整っていないので、毎日2キロ、3キロ離れた所から水を汲んで来なければならず、その仕事を女性や子供が行っています。水場で水を汲んでいる間にワニに襲われたり、道中、他の動物や水泥棒に襲われることもあるそうです。水場は動物のフンや死骸などで汚れていて、そんな水を口にすると病気にかかるという状況です。

この支援の特徴は、井戸を掘るだけでなく日本の伝統的な上総掘りの技術を移転することです。協力クラブは首都ナイロビにあるナイロビ東ロータリークラブ、技術移転はNPO法人のIWPの人たちの手を借りています。

ケニア共和国は人口3200万人、面積58万㎡。広さは日本の約1.5倍、人口は4分の1です。タンザニアやウガンダ、エチオピア、スーダンと国境を接し、山や湖、野生動物に恵まれた美しい国です。そのケニアが水に困っていると、以前メンバーだったケニア大使から聞き、広尾ロータリークラブの10周年記念事業として始めました。

これまで15本の井戸を掘り、子供たちや女性が日々の重労働から解放され定住が可能となりました。定住が可能になったことで畑も耕せる

ことになります。また子供たちは学校で教育を受け、医療、貧困、農業などの問題を考える力を養えます。安全な水を得ることで子供たちの死亡率も大幅に下がりました。それと上総掘りの技術移転によって現地の技術者が増え、いずれはIWPの手を借りずに井戸を掘れるようになります。今までフィニューラという地域で7本の井戸を掘りましたが、その結果4750人の生活の改善ができました。一つの井戸で300人から500人、多いときで900人分ぐらいの水を供給できるようになります。

プロジェクトは地域住民への説明から始まります。これまでも多くの水支援の団体がありましたが、あとの管理ができず水が使えなくなってしまうことがあるので、その管理が大事だと説明します。実際の上総掘りはIWPのスタッフと村人たちが共同で行い、井戸は2、3カ月で完成します。完成後の井戸で水を汲む人たちの嬉しそうな写真がケニアから送られてくるんですが、井戸が出来た喜びが強く伝わってきます。

今後の活動については6つのロータリークラブから協力のお申し出をいただき、ケニア水資源プロジェクト合同委員会を立ち上げました。また日本脱塩協会という海水淡水化の調査研究団体からもお申し出をいただいています。今後の計画に必要な金額は約900万円と見込んでいますが、これで18本ぐらいの井戸が掘れます。今後もイベントなどを通じて賛同クラブを増やし、活動を続けていきたいと考えています。

ありがとうございました。

高根博信様より当クラブでご用意致しました卓話の謝礼金をニコニコBoxにご寄付頂きました。ありがとうございました。